

平成 23 年 8 月 17 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

(団体名) 特定非営利活動法人
日本国際ボランティアセンター
清水 俊弘

NGO相談員による出張サービス実施のご報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり行いましたので、ここにご報告いたします。

記

1. 企画名：「きずな 国境を越えて助け合うこと」【形態：講演】
2. 出張者氏名：津高 政志(JVC パレスチナ事業担当)
3. 依頼元／主催団体名：(財)ちば国際コンベンションビューロー、千葉県高等学校教育研究会国際教育研究部会
4. 実施日時：平成 23 年 8 月 16 日 11 時 00 分 ～ 11 時 50 分
5. 実施場所：千葉県総合教育センター（千葉県千葉市美浜区若葉 2-13）
6. 企画の概要：
 - ① 企画内容：「第 4 3 回 高校生夏季宿泊国際理解セミナー」の一環として、将来高校生が国際社会に貢献できる人材になるために、パレスチナをとりまく国際政治の動きを生活の様子を通じてわかりやすく解説し、パレスチナでの支援活動とパレスチナに関する政策提言活動について紹介する。パレスチナを事例として、紛争や平和について理解を深め、考えるための一助とすることが今回の講演の目的である。
 - ② 参加者：高校生、留学生、教師など 計 86 名
7. セミナーの内容：
 - 1) セミナーの内容
前半：国際協力という仕事はどのようなものなのかを高校生にもわかりやすく伝えるように工夫して説明した。パレスチナの概略説明や、実際に現場で起こっていることなども地図や写真を使いながら紹介した。国際協力という仕事は世界を救うような仕事と思われがちだけれども、実際は支援者が現地の人たちに助けられることも多く、今回のテーマである「絆」というものの大切さを実感すると、前半は締めくくった。
後半：国際協力に必要な素養や知識、どのような視点が重要か、という点を話した。そして、問題意識を持つことの大切さ、紛争地に生まれなかった自分たちにこそできることもあるということ話をした。

さらに、今回の震災で災害ボランティアセンターに入った時に高校生が活躍している姿も目にしたというエピソードを交えながら、人の役に立つということ、そしてその難しさ、しかしひとつひとつ経験して行かなくてはいけないこと、助け合うことの重要性、ということ話を話し、この講演のまとめとした。

2) 参加者のコメント、質問:

- ① (教師のひとりから)先日自分も津波災害の支援に行くことがあったので、災害ボランティアセンターでの仕事が想像できた。あのような支援も必要だが、支援を継続することによって地元の産業が復興できなかつたり、ボランティアに頼りきりになってしまったりという負の影響もある。そこをどのように考えているか。

【回答】支援の引き際というのは重要な問題。パレスチナは 60 年以上も支援漬けになっている。支援者は常に「いつかいなくならなければいけない存在」として職務を行わなければならない。

- ② (高校生参加者)大学ではどんなことを勉強したのですか。

【回答】法学部で法律を勉強していた。大学院で今の職業に必要なことを専門的に勉強した。

- ③ (外国人参加者)自分の国も 30 年間続いた内戦が終わり、ようやく復興の段階にあるが、まだ生活は苦しい。JVCは支援できないか。どのように支援先を決定しているのか。

【回答】世界中を見渡して取捨選択をしていき、支援先を決定している。

8. 所感・効果など

千葉県内の国際理解に興味のある学生が集ったということもあり、話を真剣に聞いているように見受けられた。特に 18 歳から兵役のあるイスラエルの話、そして兵士の写真を見せたときに、食い入るように見つめていたのが印象的であった。単に「国際理解」として終わるのではなく、「自分の問題として考える」という理解の先にある部分にまで高校生の意識を持っていくにはかなりの苦勞を要するが、今回に関しては成功の部類に入ると思う。

しかし、彼らが考えた先に「行動」が伴うかということが、実際必要なことである。セミナーの中で自分が行った講演だけでなく、他の講演やグループワークを経験する中で、そういった「行動」に移す段階まで生徒が成長できれば、このセミナーの意義は非常に大きなものになるだろう。



以上

2011（平成 23）年度 NGO 相談員出張サービス報告書

報告者：（特活）関西 NGO 協議会 瀬良香織

1. 企画名：国際協カステーション 2011

【形態：相談対応サービス・講演・セミナー・その他（ ）】

実施日時：平成 23（2011）年 8 月 6 日（土）

10 時 00 分～18 時 00 分

場所：京都駅ビル（京都市下京区）

出張者氏名：奥谷充代、瀬良香織

2. 実施内容：

京都の国際協力団体が集まり、多くの人に途上国の状況を知らせ、関心を持っていただくとともに身近な国際協力への参加方法を紹介する目的で、京都駅ビルを拠点に国際協力に関するブース展示、報告会、ステージイベントなどをおこなった。

当会は、NGO の活動を紹介する「NGO ブース」に設置される「国際協力や NGO に関する相談コーナー」で参加者の方からの個別の相談に対応した。



3. 集客人数または相談対応件数：

来場者：約 3,145 人（8 月 6 日、7 日の総数、別会場でおこなわれた報告会の参加者も含む）

8 月 6 日の展示ブース来場者は 1,315 人

相談対応件数：18 件

4. 所感及び効果等：

夏休み期間中の週末ということもあり、たくさんの方にご来場いただいた。「国際協力や NGO に関する相談コーナー」では、大学生や社会人の方から、ボランティアや海外インターン、国際協力に関するキャリアなど NGO や国際協力への参加に関する相談が多く寄せられた。また、来場された方に NGO 相談員のチラシを配布し、多くの方に制度の広報をおこなうことができた。

しかし、出展スペースが限られていたため、2 日間のイベントのうち 1 日しか参加できず、さらに割り当てられたスペースも狭く、相談対応をじっくりおこなうのが難しかった。

後日（8/18）おこなわれた「ふりかえり会」では、ブースを出展した団体からスペースの拡大やレイアウトの工夫、イベント内容や広報についてのアイデアなどが出し合われ、来年度の企画に反映されることとなった。当会も、継続して関わり、イベントの改善に貢献していく所存である。



以上

NGO相談員による出張相談実施報告書

1. 行 事 名 「ピースカンファレンス 2011」NGO相談員の情報&相談コーナー
【形態：相談対応サービス】

2. 出張者氏名 (特活) 関西国際交流団体協議会 西 保彦

3. 依頼団体 社団法人大阪青年会議所・世界連携推進委員会

4. 実施日時 2011年8月28日(日) 10時～16時

5. 実施場所 TWIN MIDタワー20階 特設会場
(大阪市中央区城見2丁目1番61号)

6. 実施報告

(1) 企画概要

①当協議会では、本イベントにNGO相談員の出張サービスとして出展し、情報&相談コーナーを設置して国際交流・協力活動の情報提供と個別相談を行った。本イベントの関係者や参加者、参加団体など、関心の高い学生や若者の人材育成のきっかけ、今まで国際交流・協力の情報に接する機会の少なかった市民の理解を深めることを目的とした。

②「ピースカンファレンス 2011」は世界中から集まった学生24名が7日間議論して作成した世界平和に向けた行動をしていくためのアクションプランを発表する場として、大学生を中心に一般市民の方々にまで世界で起っている世界平和を阻害する要因を知って頂き、世界平和に向けて行動するきっかけを作って行く施策である。同イベントではNPO法人国連UNHCR協会事務局長の高嶋由美子様、一般財団法人夢現エデュテイメント代表理事の森下雄一郎様をゲストパネリストとしてフォーラムを開催する。

③ブース協力団体として本協議会を含め10団体が参加する。

- 1) 学生国際協力団体S I V I O
- 2) World Shift
- 3) Homedoor
- 4) Eco-Habitat 関西学院
- 5) MOCO(フリーペーパー)
- 6) セーブ・ザ・チルドレン
- 7) SEND To 2050
- 8) NPO法人テラ・ルネッサンス
- 9) IVUSA国際ボランティア学生協会
- 10) 関西国際交流団体協議会

- (2) 参加者 <ブース個別相談対応>8月28日(日) 合計41名
<ピースカンファレンス2011全体>
スタッフ：約50名
来場者総数：約500名 内フォーラム参加者(2部合計)約300名
- (3) 相談内容 ①NGO/NPOの活動内容について…10件
②国際協力の仕事につくにはどういった準備が必要か…8件
③ワンワールドフェスティバルの出展参加について…5件
④インターン・就職相談…4件
⑤フェアトレードの情報について…4件
⑥海外ボランティア活動に参加したい…3件
⑦経営組織・マネージメント(ファンドレイジング情報)…3件
⑧スタディーツアーに参加したい…1件
⑨募金・寄付活動の方法について…1件
⑩ソーシャルビジネスに興味がある…1件
⑪経営組織・マネージメント(人材面)…1件
- (4) 相談者区分 [学生]25名 [社会人]16名

7. 全体的な感想

昨年度から実施されている「ピースカンファレンス」(大阪青年会議所・世界連携推進委員会主催)の第2回目開催。世界中から集まった学生(24名)より世界平和に向けたアクションプランを報告するカンファレンスである。

当日は、コーディネーターに大阪大学大学院公共政策研究科の星野俊也教授をお招きし、NPO 法人国連 UNHCR 協会事務局長の高嶋由美子様、一般財団法人夢現エディテイメント代表理事の森下雄一郎氏をゲストパネリストとしてフォーラムが開催された。各パネリストの講演には約200名近い聴講者が参加し難民問題の現実やジュニア(特に中学生)レベルでの国際的リーダー育成の必要性について語られた。

このイベント参加に際して世界平和実現に向けて活動する諸団体としてブースを設けて来場者(一般・学生)に対して活動内容の提示、協力を求めるためのPRを実施。参加団体は学生主体の団体が多く、来場者も学生が半数以上であり、これからの若者の国際協力を推進する基点となる事業である。

当協議会はNGO相談員の情報&相談コーナーを設け、日頃、国際協力やNGO/NPO活動、社会企業家などに興味はあってもなかなか相談をする機会がない学生や相談や情報を求めて訪れる一般来場者に対して各種情報提供及び「NGO相談員」の制度が有ることを告知し、今後の相談窓口として活用してもらう機会を与えることが出来た。ブースへの来場者は大学生と社会人(20代)が中心であった。相談内容は学生の場合、やはりNGO/NPO団体についての基本的な活動内容を知りたい、国際協力事業に携わりたいがどの様にすれば良いかなど基本的な概要を知りたいと言う相談が大半であり、また在学中にできることとしてボランティア活動、インターンシップ体験への参加についての相談があった。また一般人では、実際に団体を立ち上げたいが、その財源確保としてのファンドレイジングについて具体的な方法を知りたい、社会起業家やソーシャルビジネスとして、その具体的事例や内容について関心がありケース事例を聞きたいと言う方も見受けられた。

出張相談として参加し、これからの若者の関心度合いが今後ますます膨らんで行くであろうと言う印象を強く受け、彼らの望む国際協力活動に助力するための適切な情報提供と相談対応に大きな責任が求められ、その必要性について強く感じた。

8. イベント開催時の風景



相談対応ブース



パネル掲示板



来場者 (1)



来場者 (2)



セミナー風景 (1)



セミナー風景 (2)

平成23年9月8日

外務省国際協力局
民間援助連携室 殿

(特活)沖縄NGOセンター

NGO 相談員による出張サービス実施報告書

NGO 相談員として、出張サービスを実施しましたので、内容をご報告させていただきます。

記

1. 依頼元／主催等団体名：第5回世界のウチナーンチュ大会 若者・学生事務局
2. 実施日時：平成23年8月28日 11:00～16:00
3. 実施場所：琉球大学
4. 実施内容：第5回世界のウチナーンチュ大会 若者・学生事務局の主催「ミニウチナーンチュフェスティバル」(対象：小学生～大学生)にて、団体ブースを出展した。沖縄から世界とのつながりを考えるイベントであるため、来場者に対し当会の活動紹介のほか、沖縄からの国際協力・交流に関する情報提供、相談対応を実施。また、展示や相談対応の他、ワークショップは多文化共生をテーマに行った。
5. 参加者人数：総勢150名
6. 所感及び効果

国際交流や協力に関心のある中学・高校生、大学生、留学生等が集い、様々な国のダンスや演奏のほか、ブースでは、留学生（沖縄県系子弟）が中心となり出身国の様子をパネルやスライドショーで紹介していた。

その中で、相談員ブースを設けることで、沖縄からの国際協力・交流に関する情報提供のほか、国際協力や NGO の活動も併せて紹介することができた。また、国際協力や交流に積極的な学生への質問にも多く応えることのできる機会となった。



相談対応とワークショップの様子